

とおるのトーク

なんだかなあ～……

人類は様々な感染症と対峙してきた記録がある。これまでに根絶できたのは天然痘だけと言われている。でっかい自然界から見れば人間なんてえのは弱く小さな存在でしかないのだよ。と、形而的に始めたが、なんだかなあ～書きはじめたらやはり内容的にコロナのことになってしまうな。パソコンを開いて雑文を書いている途中に、ふと気付いたらネットでコロナの関連サイトを検索してたりする。僕は何をしているんだろうと自戒することもしばしばである。

どこにも行けないゴールデンウィークが始まった。医療現場の現実を思うとやたらには出かけられなくなる。運動不足を防ぐためにせいぜい家の周りを散歩するか、リハビリを受けにクリニックに行くぐらいだ。排便が困難な僕は摘便のために週2回の訪問看護を頼んでいる。みどりの日の明日も休むことなく来てくれるのだ。摘便でさえ休むことができないのだからコロナ病棟などは推して知るに余りある。オリンピックに500人の看護師をというがそこまでしなきゃ開催できないのなら辞める決断を早めにしなければいけないんじゃないかな。遅くなるほど日本に対する信用が無くなるよ。

テレビをつければ毎日毎日、今日の新規感染者数は…、過去最多を更新とかね、よく飽きないよねえ。ミャンマーでクーデターがあろうが取材中の邦人ジャーナリストが拘束されようが、あんなに騒いだ接待問題もなかったかのように、とにかく視聴率が稼げるかどうかは知らないけど新規感染者数のほうが先だ。コロナ以降の日本のマスコミなんか変だぞ！首相がペッパー君に似た人に代わったとしても桜を見る会をやめたとしてもお騒がせトランプが消えたとしても、世界は、政治は、変わらない訳で、マスコミには本当に大事なことを掛け値なしに僕達に知らせる責任があるはずだ。ただ単に感染者数だけ聞かされても慣れてしまって、“そだねー”で終わってしまう。長い自粛で心を病む人も増えたと聞く、僕もふっと孤独感に襲われる。そんな時はお笑い番組もたまに見るようになった。成人してから興味もなくて全く見ていないかったのにね。最近よく聞く行動変容とはこのことなんですかね。

そもそもゴールデンウィークって映画界から名前が来てるんですね。娯楽と言えば映画の時代、映画業界にしたら書き入れ時だったわけですよ。考えてみると戦時下でさえ映画館は開けてたんです。かく云う僕もかなり長く映画館で映画を観ることもせず、もっぱらテレビ画面に映し出される映画、主にWOWOWシネマを一人鑑賞の日々である、なので映画館ならではの暗い中で沢山の人と一緒に一つのスクリーンにくぎ付けになる独特的の雰囲気も忘れてしまいそうだ、寂しいねえ。

アカデミー賞受賞作品も今年はネット配信作がいくつもあり、いわゆる映画館では観れないんです。「シカゴ7」なんてアカデミー賞的なのにネットフリックスで観る以外、今は上映館がない状況だ。小さなパソコン画面でちまちま観るのもなんか嫌だな。

コロナワクチンも政府は楽観的だけど、誰が打ってくれるんだろ？6月にこの機関紙が印刷発行される時にはワクチン接種できるんだろうか？予定では確かに高齢者への接種は6月からだよねえ。ペッパー君記者会見で胸張って言ってたよね……

文：静岡障害者自立生活センター 橋本とおる

【編集後記】今回の新企画第一弾では、介助者と近隣に出掛けた様子を紹介しています。特に、女性同士での外出の様子が伝えられるように服装や目線に注目してみました。コロナ禍での生活も長期になりストレスを感じている今日この頃ですが、マスクの中にも笑顔が随所にあふれていた今回の取材中、ほっこりとした時間を過ごせました。ご協力して頂いた鈴木さんと介助者さんに感謝致します。

広報委員：清水妙子

コロナに気をつけながらだけど、車イスでも
静岡旅にでかけよう



ひまわり通信

Vol.5 2021.6.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL：054-288-6068 FAX：054-287-4922
E-mail：himawari@scil.jp HP：<https://www.scil.jp>

編集：ひまわり事業団 広報委員会

自動車を運転することで世界が広がった。 今日は歩いて、思いのままに。

久しぶりの小旅行へ出掛けた。移動支援を利用したのは数年ぶりだ。
そこでは、清々しい風に吹かれながら誰にも気を遣わない、自由な時間が待っていた。



電車に乗って、バスを乗り継ぎ。
介助者がいると心強い。家族とは違った楽しみがある、緊張がある、自由がある。こんな自分だけの旅行は久しぶりだ。



Numazu

まわりと同じ速さで走れることが嬉しかった

自動車を運転することで世界が広がった。
幼少期、自転車に乗って颯爽と出掛ける兄や友達を羨ましく見ていた。

自動車の運転免許を取得したのは 18 歳の夏。まわりと同じ速さで走れることが嬉しく、東京や山梨まで運転するのも苦ではなかった。

しかし、30 代を過ぎた頃から身体機能が徐々に低下。
それまで松葉杖を移動手段としていた私だが、長距離歩行が困難になり、外出時は車椅子を利用するようになった。

ところが、いざ車椅子で外へ出てみると、うまく漕ぐことができず、さらに歩道と車道の間のちょっとした段差でまったく動けず途方に暮れた。

そんな時、長女の親子遠足があった。行き先は動物園。
園内は急斜面で知られる場所だ。それでも母として長女と遠足を楽しめたかった私は、簡易電動車椅子をレンタル。

おかげで急斜面でも問題なく思いきり楽しめた。レンタルした業者の方から私でも福祉サービスで簡易電動車椅子の申請ができると聞き、さっそく申請をした。

電動車イスに、心が躍った。

念願の簡易電動車椅子が納品され、心が躍った。
ところが、いくら“簡易”とついても電動車椅子は予想以上に重く、自力で自動車に積み下ろしができない。60 代半ばになった母も一人ではできず、いつの間にか玄関先に置かれたままになった。

My travel planning
2021 May 8

旅する人

私、鈴木香奈（すずき かな）。
&介助者りさん。
(介助派遣サービスひだまり)



介助者とボーダーシャツのリンクコーデ。行く人々の人から「お揃いだね」と声を掛けられた。こういうのも女子旅ならでは♪

行き先

静岡県沼津市。沼津港周辺。



移動手段

JR 東海道線 静岡駅 ⇄ 沼津駅
(1 時間弱乗車)



伊豆箱根バス
沼津駅 南口 ⇄ 沼津港
(10~15 分程乗車)



当たり前のことが当たり前にできるしあわせ。

私は現在、障害福祉サービスの家事援助と移動支援を利用している。それまで頼りは同居していた家族だった。しかし、私が年齢を重ねれば、両親も年老いていく。7年前に父を病気で亡くし、いつか親はいなくなる、と頭ではわかっていたものの、そのショックは大きかった。母もいつの間にか私より小さくなり、最近よく耳にする「8050問題」は我が家もけっして他人事ではない。

生まれ持った性格でもあるだろうが、元々人に頼るのは苦手な私。前職では社員1000人を超える一般企業で働いていたこともあり、健常者の中で負けず

に働くには、できるだけなんでも自分でやらなければ、という無意識の思いがあったのかもしれない。結婚を機にその企業を退職したが、退職の際にもらった上司からの手紙にハッとした。そこには「もう少し頼ってほしかった」との一文が。

その後の結婚生活でも私が夫に頼ることは少なかった。養ってもらう、というのが性に合はず、結局すぐに社会復帰をし、要因はそれだけではないが、「甘え上手なかわいらしい妻」にはなれず、シングルマザーになる道を選んだ。

人の手を借りなければ生活すら成り立たない障がい者は多い。私もそうだが、相手にはどうしても気を遣う。「ごめんなさい」や「すみません」が口癖だ。そして、私達を育てる親も、まわりの力を借りずに限界まで頑張るケースが多く、限界に達して慌てて障害福祉サービスを利用したいともがく。しかし、すぐには利用することができないのだ。

また、親子が故にお互い言いたいことが言えてしまって、これは一見プラスなことに感じるが、介助を受ける際には大きなネックになると私は自身の体験と、障がい当事者から聞く話から常々感じている。たとえば、「これをしたい」と指示を出しても「こっちにしなさい」と阻まれてしまう。

しかし、相手が介助者であれば道徳に反することなどでない限り、指示通りに動いてくれる。当たり前のことが当たり前にできることはしあわせなことだと思う。

今年度から介助派遣サービスひだまりに配属になった私にとって、介助者との関係がより身近になるだろう。

今回、コロナ禍ではあるが、久しぶりの小旅行へ出掛けた。移動支援を利用したのは数年ぶりだ。そこでは、清々しい風に吹かれながら誰にも気を遣わない、自由な時間が待っていた。

文：鈴木香奈 取材：清水妙子



8:50

JR 静岡駅で待ち合わせ。ヘルパーと共に切符を購入し、9:23 出発。

Departure

10:19

JR沼津駅到着。駅南口からバスに乗り換え、沼津港を目指す。行く先々、バリアフリー化が進んで快適。

Arrival



Lunch Time

11:30

沼津港飲食店街の「さかなや千本一」で昼食。テレビ等で取り上げられる人気店！！味もボリュームも凄かったけど、インスタも映える映える！



13:00～

沼津港周辺観光。びゅうおうや沼津港深海魚水族館へ。

Numazu Deep Sea Aquarium 沼津港深海魚水族館 シーラカンス・ミュージアム



OH Good! JR Shizuoka Station !



Question

→写真に写っている白いボックスは一体なんでしょう？

Answer

ケアスロープ収納BOXです。

JR静岡駅ホームにケアスロープの収納BOXが設置され、益々便利になり、助かります！



JR 静岡駅構内にある多目的トイレ。清潔さはもちろん、チルトタイプの車イスでも十分回転できる広さが確保されている。

ぼくらの 逸品

私（筆者）が頸髄損傷となり、車いす生活になって最初に出会った“車いすの人”。見たこともない車いすや身のこなしに驚き、しかも自分で車も運転してきたと聞いて二度驚いたのを憶えている。最初の病院（静岡市立病院）でまだ何もできない頃の自分にとっては雲の上の存在だった。出会った当初、何度か私に車いすマラソンを走らせようと声を掛けてくれていましたが…結局私はやりませんでした。あれから30年ほど経ち、植田さんは友人であるとともにいつも私のことを気にかけてくれてくれる、良き先輩でもあります。

静岡市清水区在住

うえだかず や
植田一弥さん（62歳） 脊髄損傷

競技歴 1985年～2018年。大分国際車いすマラソン、東京マラソン、大阪マラソン、フェスピック神戸大会 日本代表。
静岡県で初めて車いすマラソンに取り組んだレジェンド！



陸上競技のレース用車いすって、フォルムがカッコイイ。

437のステッカーは、現役最後のレースの時の選手番号。

東京オリンピック・パラリンピックで、現在はパラスポーツの認知度も上がり、メディアにも多く取り上げられるようになりましたが、レースで使用される車いす（レーサー）というものを実際よく見たことがない方も多いと思います。

そこで、現在は競技から退いていますが、静岡市在住の車いすマラソンランナー・植田一弥さんに、レース用車いすをじっくり見せてもらうと共にトレーニングの様子も見せてもらおうと、植田さんが普段トレーニングをしている静岡市東部勤労者福祉センター・清水テルサのジムにお邪魔させていただき、ご自身の「逸品」について、思う存分語っていただきました。

文：大川速巳



出来たら動画で 見せたかった 見事な移乗

生活用車いすから
レーザーに移乗する



- ①生活用車いすを左写真のような角度でレーザーに接する、両足をレーザーのシートの上に乗せる
- ②身体を座面の前にずらす
- ③右手でレーザーの右側サイドガード（緑の縁）を掴む
- ④左手で生活用車いすのフレームを持ち、身体を支える
- ⑤体を捻りながら正座するような形でレーザーのシートに移乗する。あっという間に移乗完了！すごい！

就労継続支援B型 それいゆ

コロナ禍で外出行事が難しくなりましたが、作業の合間に気分転換をかねて、少人数で出かけてみました。



コロナ禍で、今までのように月に一度のお出かけが難しくなり、また、外で体を動かす機会も減ってしまったため、作業の合間に少人数で外に出かけ、気分転換を行っています。

自然の中で、みんなとてもいい表情を見せてくれます！

サッカーも、熱が入ってます！！

毎日、昼休みは外に出てラジオ体操も行います。お手本通りではなくても、リズムに乗せて思い思いに、みんなでワイワイと身体を動かしています。

コロナに負けず、今年度も明るく楽しいそれいゆにして行きたいと思います！！

文：鈴木梨可



おきつ あやな
興津 彩菜さん

静岡県立北特別支援学校卒業。
小さい子や、小さな動物のお世話が好き。毎日、それいゆに来るのが楽しみです。

彩菜さんは、高2、高3とそれいゆに実習に来てくれていたので、皆とすぐに打ち解けることができました。

朝礼の当番も、上手に行うことができました（写真下中央）。午前中はネギの作業に取り組みます（写真右）。お家で、お母さんのお手伝いをよくしている彩菜さんは、とても上手にネギの皮をむいてくれます。
午後は、畑の作業に張り切っています。「ココア」という名前の、ロングコートチワワを飼っていて、よくお話をしてくれます。



それいゆ New members

3月に特別支援学校を卒業した2名が、4月から「それいゆ」のメンバーとして新たに加わりました。

早紀さんも、高2・高3とそれいゆに実習に来ていたので、もうすっかり溶け込んでいます。

午前中は、ネジの袋詰めを行います（写真左下）。とても丁寧に、綺麗に袋に詰めることができます。

ペンキ塗りが大好きで、塗っているときは最高の笑顔を見せてくれます。お笑いが好きで、面白いことを言つてはみんなを笑わせてくれます。

二人で楽しそうにペンキを塗る奈奈さんと早紀さん（写真下中央）。どんな会話をしているのかな？



すぎやま さき
杉山 早紀さん

静岡大学附属特別支援学校卒業。
工賃をもらったらスシローに行く！
毎朝、皆の検温をしてくれます。



生活介護さにい・始動

2021年4月より、生活介護「それいゆ」から「さにい」に改称。
放課後等デイサービスとの多機能型としてリニューアル。



令和3年4月より、生活介護「それいゆ」から

生活介護【さにい】に改称しました！

「さにい」とは陽の当たる場所・心地よい場所と言う意味があり、これまでの利用者さん・これからの利用者さんにとって居心地のよい場所で在りたいと願いを込めて、命名しました！改称に伴い、利用時間が10時～16時までと以前より1時間延びたり、土曜日も開所になったりと目まぐるしい変化に大きな期待といしさかの不安を胸に抱き4月より始動しました。

現在の活動は主に創作、売店活動（生活介護のスペースにて飲食物を販売しています！）、クッキング、周辺地域のクリーン活動、体操など身体を動かす事も忘れずに、当事者である利用者さんの気持ちや意見などを最大限尊重しながら必要な部分の補助は支援員が行い、笑顔で満ち溢れた皆さんの「居場所」となっています。

土曜日の開所日については、事業所内にいるのでは無く『極力外出しよう』という事をモットーに過ごしています。コロナ禍の今、好きな所に行くのが中々難しく、三密を避けるように努力をし、「何処なら行けるのか」日々皆で話し合い、初めての外出は護国神社のフリーマーケットに行ってきました！生活介護では久しぶりの外出となり、徒歩で移動し、少し距離があったにも関わらず皆の嬉しそうな表情が凄く印象的でした。事業所に戻ってからも『次はあそこに行きたい！』『こんな事がしたい！』と沢山の想いに溢れ、少し興奮気味で話す皆の姿が微笑ましく息抜きには打って付けだったようです。

このように新生 生活介護【さにい】は少しずつ新しい道を歩み始め、日々試行錯誤をしながら活動を行っています。事務所に来られた際は、是非とも立ち寄って頂きお声掛けください！今後とも生活介護【さにい】を宜しくお願ひ致します。



目をつむる写真展 ワークショップ開催

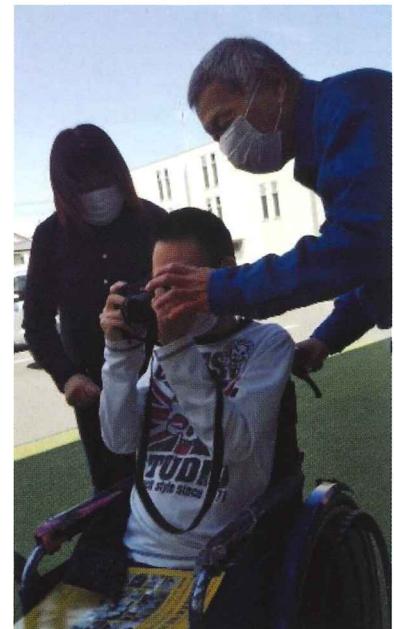
8月よりグランシップで開催される「目をつむる写真展」で展示する写真と一緒に撮りませんか？と主催で写真家の成実憲一さん（写真中央）からお声を掛けて頂き、生活介護さにいの利用者さんがメイン参加することとなりました。ゴールデンウイーク真っ只中ながら、関係者の方々にも多数集まって頂き、いざ始めよう！と、始まりましたが『写真なのに目をつむるの？』と質問が挙がり、皆の頭からクエスチョンマークも見えるようでした。

しかし、成実さんが過去に撮った味のある「目をつむる」写真を始めに見せて頂き、その素晴らしさに一同納得。用意して頂いた複数台のカメラを使用し、皆が考えた構図で目をつむる写真を撮り始めるも、照れ臭い様子でニヤニヤしたり、思わず顔を背けたりなどそれを見てまた笑いが生まれ、終始和やかな雰囲気でした。

次第に慣れ始めると次は利用者さんが『支援員を撮りたい！』と申し出があり、私たちは何よりも気恥ずかしさでいっぱいでした(笑)

撮った写真を皆で最後に確認し、少しふざけた様な写真もまた味があり、成実さんからも称賛の声が上がってきました。短時間ではありましたが貴重な体験をさせて頂き、今後にも繋がっていく内容となりました。グランシップにも展示されますので、ぜひともお越しいただきご覧下さいませ。

文：吉岡佑真



なな～ら大井川鉄道へ

なな～らメンバーで、ゴールデンウィークを避けて大井川鉄道を訪ねました。コロナ禍で自粛が続き、日常生活はグループホームと職場の往復の日々で気持ちが滅入った状態のなな～らメンバーですが、今日は、久しぶりに開放感溢れる新緑を全身に浴びリフレッシュをはかりました。

外出をした後は、日常生活にも張りが戻り落ち着いた生活を取り戻していく、やりたくない事にも前向きに取り組む姿勢が見受けられます。

まだまだ、以前のような生活には戻れませんが、感染対策に取り組み新たな楽しみを見つけて生活に活気ができるようにサポートしたいと思います。



大井川鉄道を訪ねる途中、道の駅門出に立ち寄りました。門出では、茶葉に成りきり、製造工程体験を楽しみました。茶葉ツアーズと題したアトラクションでは、皆、緑のポンチョに身を包みミストを掛けられ、温かい風や熱を送られながら、蒸す・揉む・火入れの工程を体感しました。ツアー終了後、微妙に異なる4種のお茶を飲み比べる体験もできました。「おもしろかった～」と、皆満足したようでした。

文：清水かおり

new employee



初めまして。4月よりひまわり事業団ピアサポートで正式に働くことになりました、山根夏実(やまねなつみ)です。簡単に自己紹介をしますと、静岡県立短大の社会福祉学科卒業後、生活介護と就労継続支援B型の施設で支援員として働きました。その後結婚、出産の為一度退職をしましたが、再び違う事業所の就労継続支援A型・B型の施設で支援員として働いてきました。支援員の仕事は日中の支援が主となるので、日中のサポートはできても家族支援が必要なご家庭や一人暮らしをされている方の支援にはなかなか深くは関われません。私はそのような環境の中で働きながら次第に相談員としてもう少し全体的な支援に携わりたいと感じるようになりました。そんな時、以前の職場で大変お世話になった上司からひまわり事業団の紹介を受け、縁あってピアサポートで働くことになりました。

ピアサポートでの相談業務はまだまだ分からないことばかり…。先輩職員に教えていただきながら日々勉強しています。サービスの知識や相談のスキルは今後の課題ですが、今まで経験してきたことを無駄にせずこれからの相談に活かしていきたいと思っています。

ここまで真面目な文章になってしまいましたが、普段の私は家族から言わせると天然、マイペースだそうです。子どもの頃からそう言われずっと認めてこなかったのですが、大人になり自分を見つめることが多くなって、もしかしてそうかもと思うように

相談支援事業所
ピアサポート

静岡市障害者等相談支援事業
相談員

やまね なつみ
山根 夏実
社会福祉士

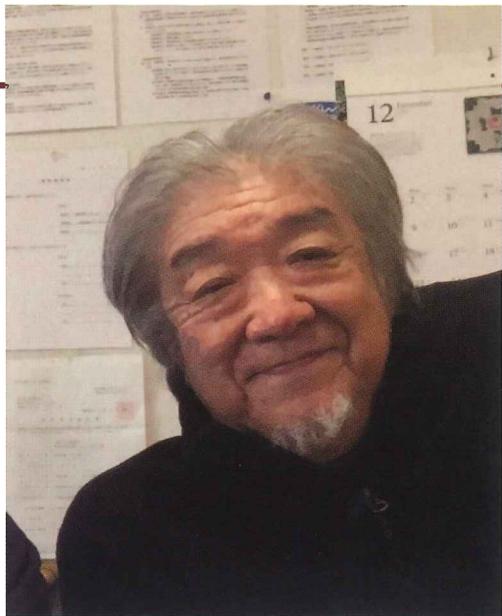
なりました。(遅いですよね。こういうところなのかもしません(笑))

中学時代は女子同士のいざこざが嫌だからという理由で男女混合の柔道部に入部(一応黒帯は取りました!)、自分のペースで勉強したいからと受験前に塾を辞め、県短では保育士の資格も同時に取れるのに社会福祉士の道をいくからと勉強をせず(これにに関しては少し後悔)。こんな感じの私です。

趣味は?と聞かれると今は子育て中であまり自分の時間がないので映画やドラマ観賞、スイーツを食べることくらいです。最近は太ってきたので、リングフィットというゲームで自称ダイエットをしています。(痩せません!) 学生の頃はギターを少しやってみたりしましたが最近はできません。旅行も好きですがなかなかコロナの影響で出来ませんね。これから時間ができたらゆっくりと読書なんかいいなと思っています。おすすめの本がありましたらぜひ教えてください。

話は戻りますが、ピアサポートで働くようになり思ったのは関係機関との繋がりの多さです。毎日様々な名称、名前が飛び交い今は覚えていくのに苦戦中です。でも、相談者さんを支えていくには様々な機関と連携していくことが重要になります。少しでも早く力になっていけたらと考えていますので、出会いや関わりを大切に、いつか皆様に自分の名前も覚えていただけるようになったらと思います。これからどうぞよろしくお願いします。





障害者生活支援センター

おのころ島 理事長

い　で　ひ　と　し
井　出　一　史　さん

静岡県藤枝市出身。
高校卒業後、音楽家を目指して上京。
大学在学中の交通事故により、障害者となり帰郷。
現・ひまわり事業団監事。

ひまわり事業団の「史処」井出さんにお話を伺いました。

※「史処」とは井出さんは歴史に詳しい方なので、名前の「史」とかけた造語です。

自己紹介、お願いします。

明治九年創業の仏具屋の跡取り息子として生を受けたが、親の許しを得て音楽家を志し上京した。しかし、音大夏期講習中の交通事故により障害者となり結局故郷に戻ることになったが、障害者にとって劣悪な社会環境に怒りと憤りを感じ障害者運動に没頭するようになり今に至る。しかし多趣味のためプライベートも忙しい。好奇心が強く見知らぬ土地の文化や人に興味を持ち旅行にはよく出かける。国内は自分の車で秋田から鹿児島まで制覇し海外は中国をはじめ欧米 11カ国を回ったが、結局障害者の視点から見分を深めることが当然多く今の仕

事や障害者運動にも活かされている。

父親譲りの木彫(一木彫りの仏像彫刻)も行うが、指が全く使えず道具を工夫して製作するため恐ろしく時間を要するため作品数は少ない。(右ページ下写真にて紹介)

最近は加齢により疾病トラブルが頻発するようになり公務から少しづつフェードアウトするようになっている。

今後はこれまでの経験を後任に伝えていくことに力を注いでいけたらと思っている。

「おのころ島」について教えてください。

一言でいえば相談支援・地域活動支援センター・放課後等デイサービスを行っている自立生活センターです。前身は「めばえ(昭和46年設立)」という当事者団体で、後に「輪々会」に変更しましたが何れも CIL の理念を背景に持つ団体です。輪々会では主にまちづくり運動を進めてきましたが、具体的には議会および行政、そして各関係機関やマスコミにも理解と支援を求めるなか社会との連携を意識して様々なイベントや学習会を実施してきました。

その後、実効性の強い拠点を求めた結果おのころ島の開設に至ったわけですが、タイムリーにも市町村障害者生活支援事業の実施が CIL の目的と重なつたことも追い風となりました。

しかし、皮肉にも次第に障害者サービスが整備される中、経営の安定が求められる一事業所と CIL としての理念に拘るあまり利益を出しにくい双方の経営方針に合意点を見いだせず運営形態のバランスに苦慮し非常に不安定な経営状態が続いているのが大きな悩みです。

ひまわり事業団との関りについてお話ください。

古い話ですが、私がひまわりと関わりを持ったのは 1979 年だったように記憶しています。当時、私は静岡県車椅子友の会の役員として活動しており静岡県ボランティア協会とも深いつながりがありました。当時の障害者を取り巻く社会環境はまだまだ未整備の状況にありボランティア活動の存在意義はとても大きかったからです。したがって、私の活動は社協・ボランティア協会なしにはあり得なかったわけです。

そんな中 1981 年に国際障害者年と時を同じくして JIVA(日本青年奉仕協会)主催の東海北陸ブロックボランティア研究集会を静岡で開催することとなり、その準備のため私も実行委員会に参加していました。この集会は、様々な地域課題についてそれぞれの現場レベルから発言するもので、国際障害者年を意識してということより地域課題を抱えた当事者という位置づけで私も参加していました。ちなみにその委員会の事務局が当時県社協職員であった M.S 氏です。そして同じ実行委員として参加してきたのが渡辺正直氏だったわけです。これが私とひまわりとの出会いのきっかけです。追って鈴木豊治氏も委員に加わってくる中、二人の住處である「ひまわり寮」や「豊田生活センター」などにも顔を出すようになりました。自身は藤枝市で 1971 年に発足した「藤枝市重度障害者の会めばえ」で地域に根差した当事者運動を行っていましたが、ひまわりの活動にも強い関心を持つようになりました。

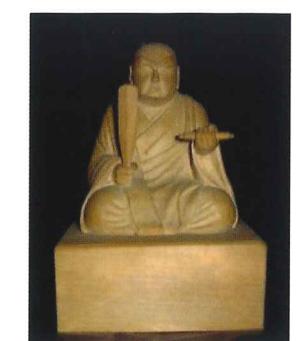
とくに健常スタッフと数名の障害者の共同生活は刺激的でした。後にグループホームという言葉がはやり始めた頃、朝日新聞厚生文化事業団がひまわり寮をグループホームの原型というようなことを書いていたような記憶がありますが、重要なのはなぜそのような生活形態にたどり着いたかです。彼らは地域社会からかけ離れた大規模障害者収容施設でその生涯を送ることに反発し、まだまだ重度障害者の生活環境が未整備な地域社会へ敢えて新しい生活を求めたのです。その背景にあるものはやはり自立に対する強い願望であり併せて権利の主張で

す。その理念はその後自立の理念(自己選択・自己決定・自己責任)として自立の概念が確立される上で明文化されることとなります。しかし特筆すべきはこれが今から半世紀近く前に実践されていたということでしょう。

彼らは地域で自立していくために必要なことはすべてチャレンジしてきました。生活拠点の確保とともに欠かせないのが介護と収入の確保ということになりますが、多くの学生を中心とする介助者の確保は、募集のビラ配りなどのアクションが重要で多くの若者を啓発していきました。有名な後藤匡弘さんの納豆売りはあの笑顔で地域とのネットワークを作りました。実は全国車椅子市民集会・静岡大会で二年間庶務を担当してくれた M.E 氏は後藤さんの納豆売りにひかれて福祉活動に关心を持つようになり大会スタッフに応募してくれました。済生会病院駐車場の駐車場管理の仕事は大きな安定収入となりましたが、K.O 先生の理解とつなぎ役の M.O 氏の存在抜きには語れません。

定期的に大々的に開催したバザーやひまわり号などは多くのボランティアと地域を繋げました。まだあります、このように先人たちの草の根運動が地域との結びつきを強くしひまわりを中心とした地域ネットワークを構築することができたわけです。

このような事業団に成長した背景にこのような先人たちの草の根運動があったことを知り、その文化を引き継ぎ他の事業所とは違うひまわり事業団独自の強みとしていただきたいと思います。



白衣觀世音/1990製作